



安曇野の里ウォーク

2014.05.18 15km ゆったり9km

コース紹介

わさび田湧水群 や水田に映るアルプスの山々、安曇野の田園地帯を歩きます。 午前・午後とも、スタートとゴール地点は同じ場所になります。「**安曇野の里**」をスタートし、安曇野わさび湧水群を一周し、県道に出て万水橋を渡り右に進みます。 左右に道祖神を見ながら歩きましょう！ 白金橋を渡り、田園地帯を過ぎると、**等々力(とどろき)家**に着きます。 見学・トイレを済ませ、東光寺の角を右にまわり進みます。 穂高川に出て右に進み、右にわさび田、左にアルプス連峰と、春を感じさせる景色を見ながら、ゆっくり歩きましょう。「春は名のための…」早春譜の歌碑を過ぎたら右に入りしばらく進みます。 万水川沿いに歩き、スタート場所の安曇野の里に着いたらここで昼食です。 午後はバス移動(10 分くらい)にて**貞享義民(じょうきょうぎみん)記念館**に行き、ここからウォーク開始です。 ウォークは午前中で十分という方は記念館見学で時間を過ごしてください。 中萱(なかがや)集落、田園地帯を通り、灌漑用に作られた用水路、拾ヶ堰(じっかぜき)に出ます。用水路沿いに進み、じてんしゃ広場で小休止して、ゴールの貞享義民記念館まで歩きます。**等々力家と貞享義民記念館の入館料は参加費から支払いますので皆さんの負担はありません。**

コース

往路(バス) 富士宮駅南口==甲府南IC==双葉SA(WC)==安曇野IC
6:00 7:30~7:45
==安曇野の里
9:00

ウォーク 安曇野の里(WC・スタート)・・・わさび田湧水群・・・
9:20
等々力家(見学・WC)・・・安曇野の里(昼食・WC)==バス==
10:50~11:20 12:10~13:10
==貞享義民記念館・・・中萱集落・・・じてんしゃ広場
13:20 14:00~10
・・・貞享義民記念館(ゴール・WC)
14:40

復路(バス) 貞享義民記念館==安曇野IC==双葉SA(WC)==
15:15 16:15~40
甲府南IC==富士宮駅南口
18:15

午後のコース

じてんしゃひろば
WC
14:00~10

貞享義民記念館
スタート&ゴール
WC
13:20
14:40~15:15

緊急時連絡

石川 陽子 090-1825-4583
佐藤 和代 090-6091-4335

参加者の皆様へ

- 主催者は、歩行中の事故について傷害保険に加入している他は応急措置以外の責任は負いません。
- スタート前には必ずトイレを済ませてください。
- 原則として右側通行を遵守し、2列以内で歩きましょう。
- 一般道を横切の場合は、役員の指示に従ってください。
- 体調が悪くなったら遠慮せずに役員に連絡願います。

等々力(とどろき)家

長野県安曇野市等々力(旧南安曇郡穂高町等々力)にある歴史的建造物。江戸時代の松本藩主の本陣として使用された施設で、安曇野市有形文化財(旧・穂高町文化財)に指定されている。桃山中期の様式須弥山石組の庭園と、長屋門、書院は江戸時代中期の作である。NHK 連続テレビ小説「おひさま」のロケ地として使われたため、観光客も多い。

次回申込 (車内で)

歴史の道・村山古道ウォーク

☆期 日 6月22日(日)

☆集 合 **普通** 富士宮駅南口 6:50

吉原駅南口 7:30

(申し込み時どちらか申告してください)

ゆったり 富士宮駅南口 10:30

*ゆったりは広見公園から村山浅間神社まで歩きます。

昼食は広見公園で食べます。

(ゆったり希望者は申し込み時に申告してください)

☆参加費 1500円

☆メ 切 6月17日(火)

午前のコース

等々力家(WC)
10:50~11:20

安曇野の里
スタート&昼食
WC
9:00~9:20
12:10~13:10

安曇野わさび田湧水群

貞享義民(じょうきょうぎみん)記念館

中萱村元庄屋多田加助を中心として1686年(貞享3年)に松本藩で起きた百姓一揆、貞享騒動(加助騒動)の顕彰、及び騒動に関する広域的な保管施設として1992年(平成4年)に建てられた安曇野市立の記念館である。加助達義民の業績は単に「年貢軽減のための経済闘争」とどまらず、土農工商といわれた身分制度の厳しい封建社会において「俺たち百姓も人間として生きたいんだ」と真に願ったことにある。それは現代言えば「人権主張」であったととらえ、これを後世に伝え、安曇野の重要な歴史を永続的に顕彰していくこととして、「ふるさと創生」の一環としての意義も含めて「人間として生きる権利の主張」をテーマに設立された。

ハの字に設計された建物には、義民達が来てくださったお客様を両手を広げてお迎えしよう、との意味が込められている。外壁のタイルは、騒動に参加した1万人の百姓たちを象徴している。硬いタイルをがっちり組んでるのは、「上からの権力には潰されないぞ」という義民の意志の強さを表している。ホール天井は蓑笠の笠を模したものである。車廻状の意もある。正面入り口左には日本国憲法第11条・12条が、右には世界人権宣言第1条の碑文が日本語と英語で書かれている。館外には井戸があり、地下130m から汲み上げた水を開館に合わせて流している。義民の清らかさを表していると同時に、潤す意も込められている。(加助達の生きた時代、この地域は水争いも起きるほど水不足に悩まされていた。)

